資料５－０

釧路総合振興局管内の二級河川における減災に係る取組方針（案）

平成３０年３月２０日

釧路川外減災対策協議会

（釧路市、釧路町、厚岸町、浜中町、標茶町、弟子屈町、鶴居村、白糠町、釧路総合振興局、
北海道警察釧路方面本部、北海道釧路方面釧路警察署、北海道釧路方面弟子屈警察署、
北海道釧路方面厚岸警察署、釧路地方気象台、釧路開発建設部）

「釧路管内の二級河川における減災に向けた取組方針」のポイント

関東・東北豪雨災害（平成２７年９月）、北海道台風１０号災害（平成２８年８月）により甚大な被害！

⇒「施設の能力には限界があり、施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するもの」へ意識を転換し、社会全体で取組が必要

平成29年6月　北海道管理河川も本格展開するため釧路川外減災対策協議会設立

釧路市長、釧路町長、厚岸町長、浜中町長、標茶町長、弟子屈町長、鶴居村長、白糠町長、釧路総合振興局、釧路地方気象台、釧路開発建設部

関係機関の協力（消防、自衛隊、警察）

堤防整備や河道掘削などハード対策を中心とした段階的な整備

＋

氾濫することを前提とした減災のための取り組みとして、避難行動や水防活動などのソフト対策の推進

◆地形的特徴

① 河川勾配や地形勾配が急である
② 市街地が広がる支川合流部や河口付近の平地を流下

◆大規模水害時の主な特徴と課題

◇急激な水位上昇による氾濫水の短時間流入により、早期の避難困難水位到達に懸念。また、主要な道路で河岸侵食等による市街地・集落の分断のおそれ。

◇氾濫水の拡散により浸水が広範囲に及び、多くの住民が避難を余儀なくされることが懸念。市街地の公共施設や主要道路が浸水被害を受けることによる、社会経済への影響が懸念。

◇居住市町村外への通勤、通学、通院、買い物等を行う住民に対して発災時の情報発信不足による避難遅れに懸念。また、釧路管内は、国内外から多くの観光客が訪れるため、観光客に対する水害リスク等の情報発信を適切に行うことが重要。

◆取組内容のポイント

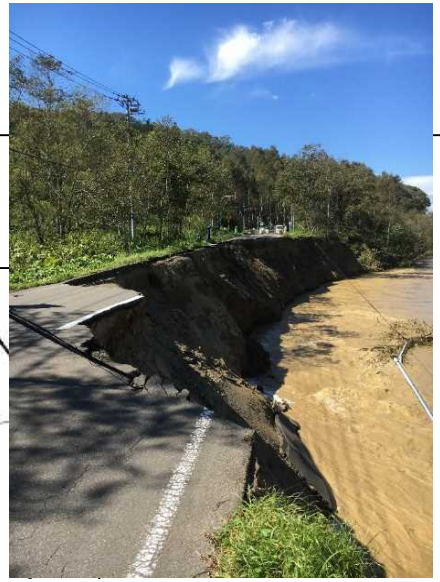
（ハード対策）
・洪水を河川内で安全に流すための河道掘削の実施
・洪水時の避難勧告等の発令判断に活用する危機管理型水位計の整備

（ソフト対策）
・水位周知河川における、想定最大規模の洪水に対する浸水範囲、浸水深等の情報を踏まえた、避難場所等の検討及びハザードマップの更新。避難勧告着目型タイムラインの作成及び充実。
・水位周知河川以外の河川における、水位周知河川に指定する河川の検討及び水害危険性を周知するための情報提供方法の検討。
・水防資機材の充実や水防訓練の取組
・防災意識の醸成のための講習会、幼少期からの防災教育の充実
・観光客や市町村外への通勤、通学等の住民に対する情報発信方法の検討

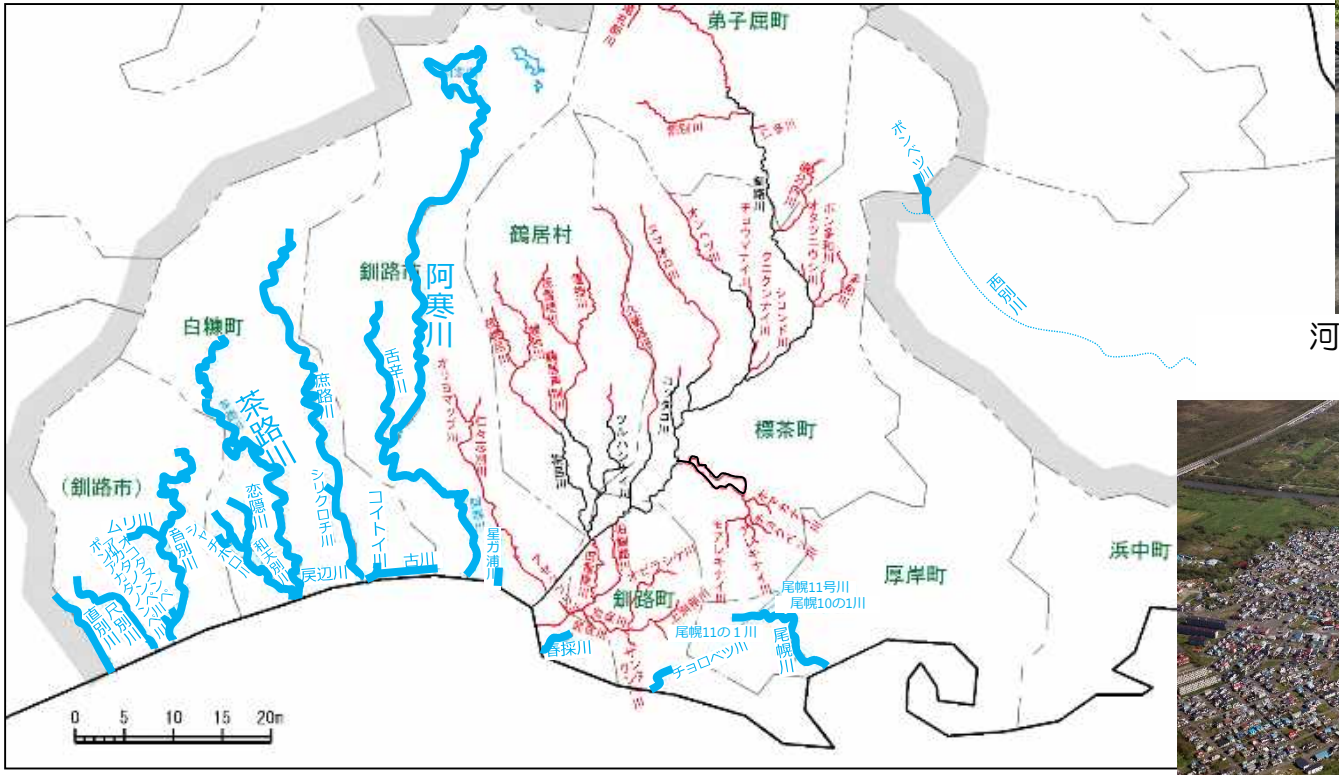
釧路管内の二級河川における地形的特徴

①河床勾配や地形勾配が急である
- 短時間で水位が上昇しやすく、侵食力が高い

②市街地が広がる支川合流部や河口付近の平地を流下する
- 氾濫水が拡散しやすく、浸水が広範囲に及ぶことが懸念される。



河岸侵食により被災した道路
（H28.8庶路川）



河口部の市街地を流下する阿寒川（釧路市大楽毛地区）

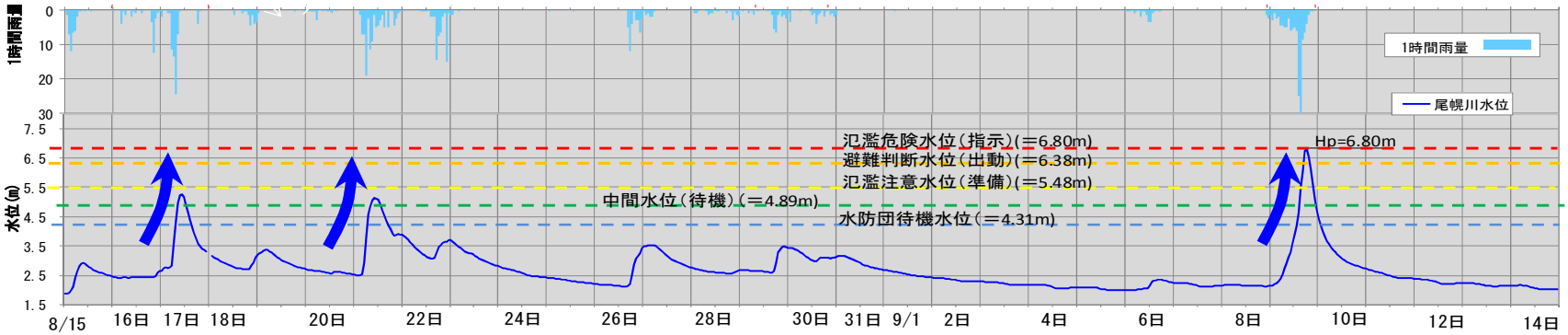
釧路管内の二級河川における大規模水害時の主な特徴と課題①

■河床勾配や地形勾配が急であることから、急激に水位上昇し、氾濫水が短時間に流入するため、早期に避難困難水位に達するおそれがある。
　また、主要な道路が近接している箇所では、浸水や侵食により市街地・集落が分断されるおそれがあり、社会経済への影響が懸念される。

国道に近接して流れる茶路川（白糠町）

市街地の脇を流下する尾幌川（厚岸町上尾幌地区）

尾幌川の水位状況（H28年8月）



釧路管内の二級河川における大規模水害時の主な特徴と課題②

■市街地が広がる支川合流部及び河口付近の平地では、氾濫水が拡散しやすく、浸水が広範囲に及ぶことから、多くの住民が避難を余儀なくされ、公共施設や主要な道路が浸水被害を受けるおそれがあり、社会経済への影響が懸念される。

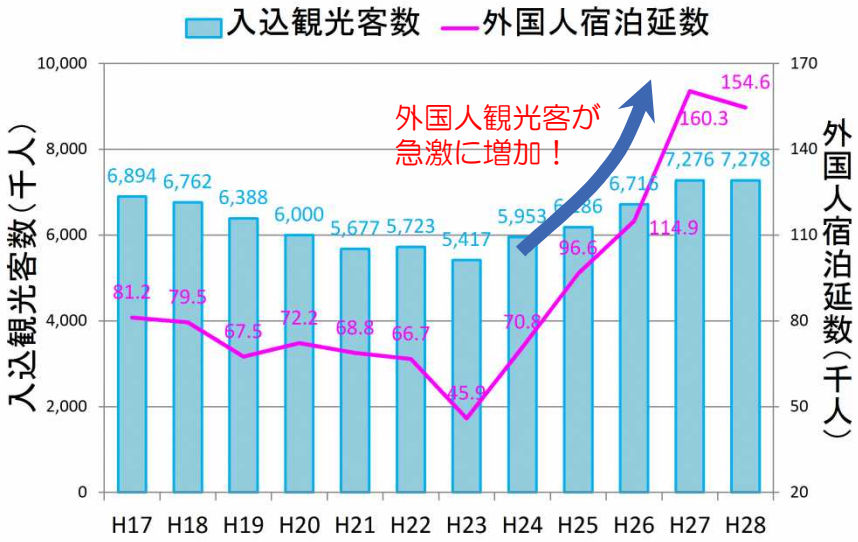
阿寒川と舌辛川合流点付近の市街地（釧路市阿寒地区）

河口部に市街地が広がる茶路川（白糠町）

釧路管内の二級河川における大規模水害時の主な特徴と課題③

■居住市町村外への通勤、通学、通院、買い物等を行う住民や観光客への情報発信

・発災時の情報発信不足による避難の遅れが懸念されるため、居住市町外へ通勤、通学等を行う住民や、観光客に対して水害リスクや発災時の行動に関する情報発信を適切に行うことが重要である。



釧路管内における観光客数の動向

出典：北海道公表資料から、釧路管内について記載

釧路川のカヌーツアー

特別天然記念物のタンチョウ

北海道

減災のための目標

■概ね５年間で達成すべき目標

釧路管内の二級河川の大規模水害時の急激な水位上昇や広範囲な浸水に対しての「迅速・確実な避難」、「社会経済被害の最小化」を目指す。

■目標達成に向けた２つの取組

釧路管内の二級河川において水災害防止を目的として河川管理者が実施する堤防整備等の洪水を河川内で安全に流す対策に加え、以下の取組を実施。

１．迅速かつ確実な避難のための避難行動に関する取組

２．洪水氾濫による広範囲にわたる浸水被害から社会経済被害を軽減するための的確な水防活動・早期復旧のための取組

主な取組①　河川管理施設の整備に関する取組
～河道掘削等の実施～

【現状の取組】

○流下能力が不足している区間において、河道掘削等を実施している。

流下能力が不足している河道

【課題】

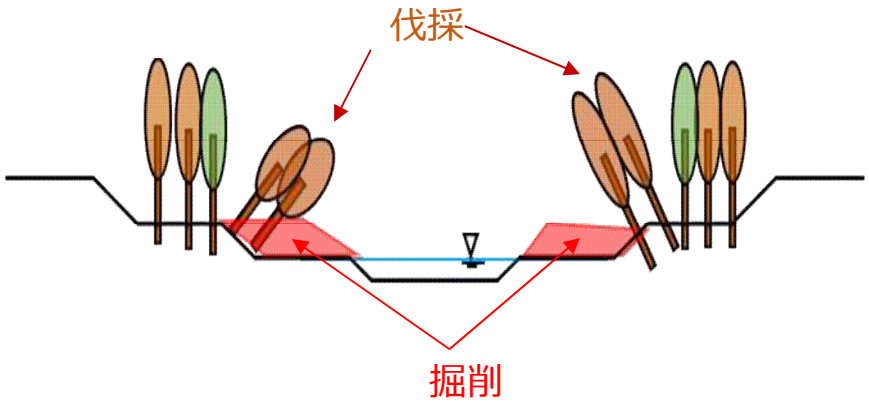
●高さや幅が不足している堤防や流下能力が不足している箇所があり、洪水により氾濫するおそれがある

【概ね５年で実施する取組】

・河川改修事業の実施
　（尾幌川、春採川、阿寒川）

・「河道内樹木の維持管理のあり方」に基づき、河道内樹林の伐採や河道掘削の実施

・堤防天端保護（越水等が発生した場合でも決壊までの時間を少しでも引き延ばす対策）の検討及び実施



河道掘削等のイメージ

主な取組②　河川管理施設の整備に関する取組
～避難に資する施設等の整備～

【現状の取組】

○水位計を設置しホームページを通じ水位情報を伝達している。

釧路管内 水位観測所位置図

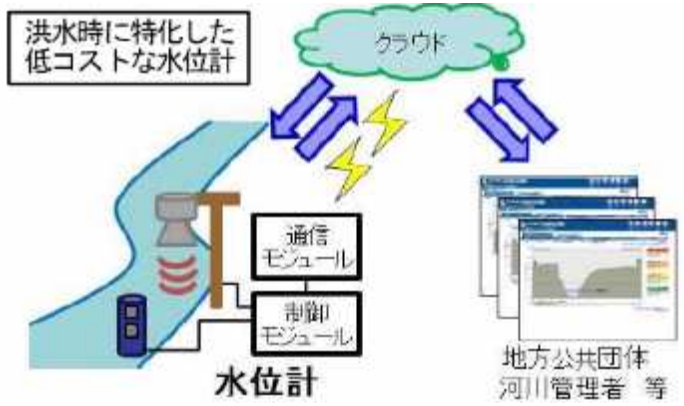
水位観測局舎

【課題】

●水位計が設置されていない河川においては、洪水時にリアルタイムに水位情報を得て、危険度を把握することができない。

【概ね５年で実施する取組】

・水害リスクの高い地区に対して、洪水時の避難勧告等の発令判断に活用する水位計（危機管理型等）を整備する。

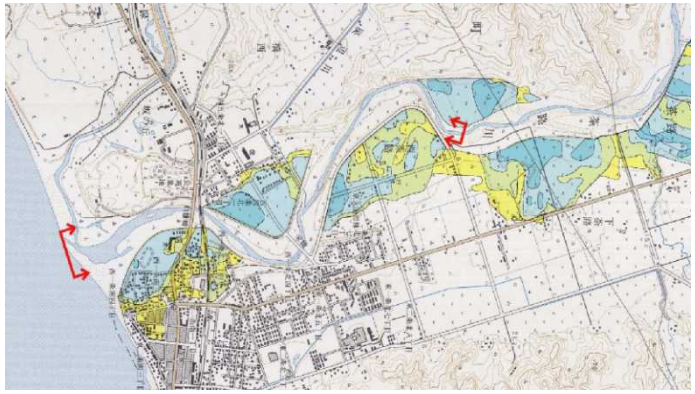


危機管理型水位計のイメージ
国土交通省ホームページより

主な取組③　迅速かつ確実な避難のための取組
～情報伝達、避難計画に関する取組①～

【現状の取組】

○水位周知河川（※）である尾幌川、茶路川、庶路川では浸水想定区域図を作成し、公表済み。
　また、想定最大規模の降雨を対象とした洪水浸水想定区域図を作成中。



現行の浸水想定区域図（茶路川）

【課題】

●浸水想定区域図が公表されていない河川が氾濫した場合の避難場所・避難経路の検討に苦慮することが懸念される。

【概ね５年で実施する取組】

・尾幌川、茶路川、庶路川における想定最大規模の洪水を対象とした洪水浸水想定区域図を作成・周知する。

・水位周知河川以外の河川において、新たに水位周知河川に指定する河川の検討及び、想定し得る浸水区域や浸水深など水害危険性を周知する方法について検討、調整する。

想定最大規模の洪水浸水想定区域図の事例
（新釧路川）

（※）水位周知河川：河川管理者が避難勧告等の発令の目安となる氾濫危険水位に達した時等に、水位情報の通知及び周知を行う河川

主な取組④　迅速かつ確実な避難のための取組
～情報伝達、避難計画に関する取組②～

【現状の取組】

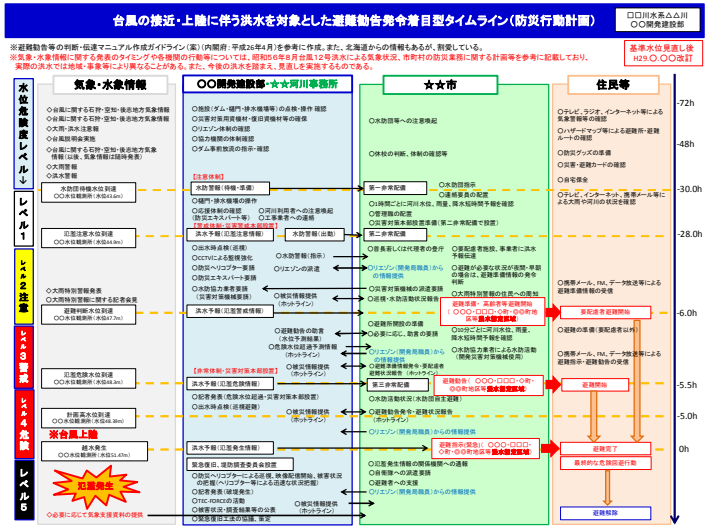
〇水位周知河川では、避難勧告の発令の目安となる氾濫危険水位に達した時等に、水位情報の通知及び周知を行っている。また、氾濫危険水位への到達、重大な災害が発生するおそれがある場合は、河川管理者から町へホットラインで知らせている。

【課題】

●現行の地域防災計画には、水位に対応した避難勧告等の発令基準や発令対象地区が明確に記載されていない。
●防災情報が適切に避難勧告等の発令に繋がるよう、避難勧告に着目したタイムラインや避難勧告等の判断や伝達方法等を予め整理する必要がある。

【概ね５年で実施する取組】

・避難勧告に着目したタイムラインの策定に対する支援
・洪水時の堤防や河川水位の状況などの情報について河川管理者及び関係機関と情報共有する方法の検討。
・避難勧告等の判断・伝達マニュアル、作成例の提供等、自治体の作成を支援する。
・多機関が連携する水防災タイムラインの先行事例紹介や検討会等への参加呼びかけ等の支援を行う。

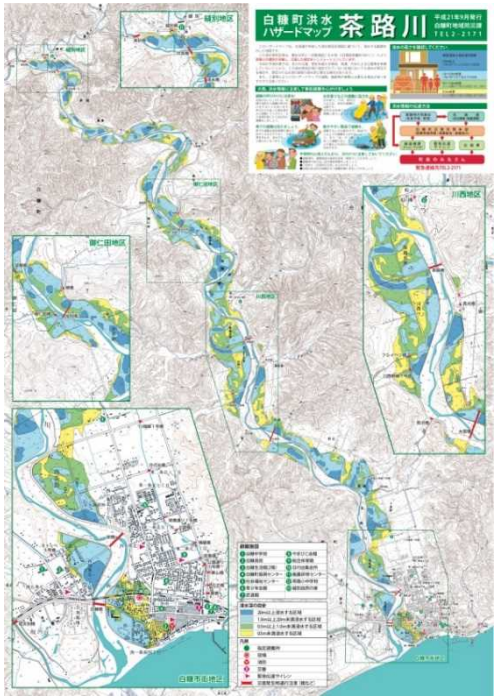


避難勧告着目型タイムライン作成事例

主な取組⑤　円滑かつ迅速な避難のための取組
～平時からの住民等への防災教育・訓練に関する取組①～

【現状の取組】

○浸水想定区域を公表し、それと基に洪水ハザードマップを作成、浸水範囲、避難所、避難場所を周知している。
○避難に関する情報及び避難の際の注意事項等を防災無線、広報車、消防車、ホームページ、ＳＮＳ、登録制メールなどにより情報伝達している。



現行のハザードマップ（白糠町）

【課題】

●今後、想定最大規模の洪水における避難場所や避難経路の検討が必要である。
●観光客や要配慮者へ伝えたい情報が正しく伝わっているか懸念される。

【概ね５年で実施する取組】

・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図等に基づいて、ハザードマップを作成・周知を行う。また、避難場所等を検討し、必要に応じて地域防災計画を更新する。
・観光客や市町村外への通勤、通学等の住民に対する平時及び発災時の情報発信方法の検討を行う。
・要配慮者利用施設管理者向けの説明会など、要配慮者支援体制の構築への支援を行う。
・道路管理者と連携を図り、情報共有方法や避難経路等を検討する。

主な取組⑥　円滑かつ迅速な避難のための取組
～平時からの住民等への防災教育・訓練に関する取組②～

【現状の取組】

○地域住民対象の防災講演会や研修会を実施している。
○避難所運営ゲーム（HUG）の北海道版の取組を行っている。
○防災に係る学校教育支援の取組みを行っている。

避難所運営ゲーム（HUG）の様子

【課題】

●防災情報の意味やその情報による対応が住民には十分認知されていないことが懸念される。
●住民の防災意識向上のため、住民対象の講習会、研修、訓練及び幼少期からの防災教育を実施、継続していく必要がある。

【概ね５年で実施する取組】

・防災意識醸成のため、関係機関及び地域住民を対象とした水防災に関する講習会や研修の実施、避難訓練の実施を行う。
・釧路管内の河川の特徴を踏まえた幼少期からの防災教育の継続実施及び拡充を行う。
・関係機関及び地域住民を対象とした水防災に関する講習会や研修の実施、避難訓練の実施、自主防災組織等の住民意識向上など効果的な対応を検討する。
・住民の水防災意識啓発のための広報の充実（ホームページ内の水害リスク情報や減災の取組関連情報を一元的に情報発信し、関係機関のホームページからアクセスしやすくする等）

主な取組⑦　的確な水防活動のための取組

～水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する取組①（水防力の強化）～

【現状の取組】

〇重要水防箇所は、適宜、現地の状況を確認している。
〇河川管理者、気象庁からの発表に基づき、水防団や住民に情報伝達している。
〇水防資機材を保有しており、毎年水防資機材の保有状況について確認をしている。

河川パトロール状況

防災資材備蓄倉庫の備蓄状況
（釧路総合振興局）

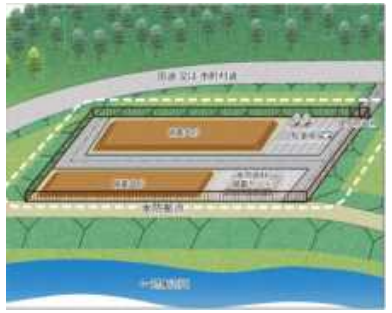
【課題】

●近隣住民、水防団へのリスク情報の周知が十分とは言えない。
●排水作業が多地点で行われる場合、資機材の不足が懸念されるとともに、共有方法や相互支援の方法が確立されていない。
●近年、大規模洪水が発生していないことから、土のう製作をはじめとする水防資機材の使用に関する知識・技術が不十分である

【概ね５年で実施する取組】

・重要水防箇所の見直し及び共同点検を行う。
・関係機関が連携した水防訓練を実施する。
・水防資機材の充実・維持を図り、釧路川外減災対策協議会での情報共有を行う。
・防災資材備蓄整備施設の検討及び整備を行う。

釧路川総合水防演習広域連携防災訓練の様子
（釧路開発建設部ホームページ）



防災資材備蓄整備施設の整備イメージ

主な取組⑧　的確な水防活動のための取組

～水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する取組②（水防体制の強化）～

【現状の取組】

〇大雨等河川水位の上昇が予想される場合には不測の事態に対処できる体制を整えている。
〇避難誘導は、地域防災計画に基づき市町村職員、警察官、水防団員（＝消防団員）が連携して実施する。

【課題】

●経験したことのない洪水により、対処できる体制を越える事態が懸念される。
●水防団員が減少傾向にあるため、避難誘導時に人員が不足することが懸念される。

【概ね５年で実施する取組】

・釧路川外減災対策協議会への参画や釧路管内８市町村防災基本協定の継続
・排水ポンプ車等の出動等に係る関係機関との調整方法の確認を行う。
・平時からリエゾンやテックフォース活動状況の情報提供や災害時における活動による支援を行う。

フォローアップ

本取組方針については、今後の取組状況を踏まえ随時見直しを行うこととしており、毎年、進捗状況を共有するなど持続的なフォローアップを行い、随時、取組方針を見直すこととする。

釧路管内の減災に係る取組方針　フォローアップ

目標	取組事項	具体的取組	進捗達成度（上段：目標、下段：進捗）				取組主体	備　考
			平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度		
円滑かつ迅速な避難のため取組	情報伝達、避難計画等に関する取組	洪水時における河川管理者からの情報提供等の内容及びタイミングの確認	▬	▬	▬	▬		
		避難勧告等の発令対象区域、発令判断基準等の確認	▬	▬	▬	▬		
		・ ・ ・ ・						